



広げよ 可能性の地図、  
定めよ 羅針盤



真摯 勤勉 質実

山口県立小野田高等学校

校長通信（発行不定期）

平成30年10月1日 **第6号**

## 君は母校にどのような貢献ができるか？

“Ask not what your country can do for you,  
ask what you can do for your country.”

1961年、第35代アメリカ合衆国大統領が登場しました。若干43歳の若くハンサムな大統領。その名をJ. F. ケネディといました。圧政や貧困、差別や戦争等をなくし、すべての国民が自由で幸福になれる理想社会を創らんとする彼の熱意と行動力は、老若男女や人種を越えて多くのアメリカ人の心をとらえたのでした。



J. F. Kennedy

(1917~1963)

その彼が、大統領に就任した際に国民に訴えたのが、上記の演説でした。訳して「祖国があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが祖国に何ができるかを問いなさい。」国民にとって、己の利益や権利は大切。しかし、国民も社会に果たすべき責務があるのではないか。ケネディ大統領はより良いアメリカ社会を築き上げるために、あえて国民に、利益よりも犠牲を、権利よりも義務を求めたのでした。

ひるがえって、君たちはどうでしょうか。当然のことながら、君たちには、充実した実りある学校生活を享受する権利があります。しかし、自らは行動せず、「学校が何もしてくれない」、「先生や友人が自分の希望するように動いてくれない」などと、言い訳をしたり、責任転嫁したりすることはないでしょうか。

学校はいわば社会の縮図です。社会生活を送るためには、ルール（校則）を守ることは当然です。それとともに社会に貢献することも大切です。困っている友人を支え助けてあげること、クラスや部活動、学校行事、ボランティア活動などに積極的に参加・協力すること、環境美化や地域貢献に努めることなど、君たちが学校に貢献できることは数多くあります。そうした活動をとおして、君たちは、自分が社会にとって必要な人間であるという自信や自分が社会の役にたっているという自己有用感を獲得し、将来のより良い人生を築く上での「確かな力」を培うことができるのです。

それゆえ、私は、声を大にして君たちに訴えます。

“Ask not what your school can do for you,  
ask what you can do for your school.”

## 思春期教育講演会～自己理解と他者理解について学ぼう～

大人でも子どもでもない「思春期」。この時期は、自我がまだ確立していないため、感情の起伏が激しく、自分自身のこと・対人関係、いろいろなことを思い煩います。これがいきすぎると「自我の危機」をもたらします。

今が思春期まっさかりの生徒の皆さん。心理学の観点から、現在の自分自身や他者理解のあり方について学んだ思春期教育講演会、大変勉強になりました。「よく生きる」ためのヒントをもらいましたね。講演後、君たちが書いてくれた意見・感想の一部を紹介します。

○「まだ誰も気づいていない自分」というものがあるということに驚いた。(1年生)

○健康な心とは、ゆとりがあったり、心のバランスがとれていたりすることが学べた。(1年生)

○人は誰でも親・大人・子どもという「3つの心」をもっている。これのどれかが強すぎると人間関係がこじれやすいという指摘は、なるほどと思った。(1年生)

○人が成長し続けるためには、自分自身の生き方について、絶えず追求し続けることが大切ということがわかった。(2年生)

○「ジョハリの窓」に興味をもった。人によって窓の形が違ったり、人と関わっていくことで、窓の形が変わっていくことがおもしろいと思ったから。(2年生)

○私は、自分が自己犠牲(NP)タイプのような気がした。周囲の空気を読みすぎず、もっと自分の意見や考えも尊重していこうと思った。エゴグラムアンケートをやってみるつもり。(3年生)

○相手を理解するためには、自分の都合のいいものさしや偏見で計るのではなく、相手の現実あるがままの姿を受け止めていきたいと思う。大学でも心理学を勉強してみたい。(3年生)

「自分とは何か」「他者とどのように関わっていくべきなのか」、多感な思春期を悩みながら生きている君たちには、その問いに思考停止したり逃避することなく真摯に向き合い、答えを探し続けていってほしいと思います。なぜなら、その姿勢が君たちの人間的成長・発達を促すからです。

## 1年生諸君、原点にかえれ

私は今でも鮮明にこの日のことを覚えています。

4月9日(月)。君たちの入学式の日です。あの日、私は壇上から式辞を読み上げました。そのときの君たちの真剣な眼差しは、本当に印象的でした。「よし。やるぞ。」「勉強や部活動、頑張るぞ。」皆、熱意に溢れているように見えました。私は着任したばかりで、本校のことはよくわかりませんでしたが、君たちの光輝く瞳は強烈な思い出として今でも想起されます。

あれから半年。1年生諸君、現在の状況はどうでしょうか。毎日の勉強や部活動、一生懸命に取り組んでいますか。自分の将来について真摯に考えていますか。

学校生活にも慣れ、入学当初の緊張感もなくなるのが、1年生のこの時期からです。しかも大学受験はまだ先の話。授業に対する真剣さが欠けてくる、予習・復習が疎かになる、ゲームやケイタイ・スマホ、遊びに熱中してしまう、など学習や生活態度にマイナス面があらわれはじめるのもこの時期です。よく言われるいわゆる「**中だるみ**」の状態です。

もちろん、「自分は中だるみなんて無関係」と胸はって言える人もいるでしょう。でも、そうではない人も少なからずいるのではないのでしょうか…1年生諸君、今、改めて自分の学校生活をふりかえってみてください。そして、充実した学校生活を送れていないと感じている君へ。「初心忘るべからず」です。君の原点は真新しい制服に身を包み、希望に燃えて本校に入学した日なのです。あの日、自分が考えたこと、夢見たこと、それを思い起こしてみてください。



入学式